

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成29年度第2回高松市創造都市推進審議会
開催日時	平成29年9月23日(土) 13:30~15:30
開催場所	たかまつミライエ6F 男女共同参画センター 学習研修室
議 題	(1) 第2次高松市創造都市推進ビジョン(案)について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、佃委員、西成委員、大久保委員、木村委員、三井委員、小池委員、小林委員、井本委員、山崎委員、渡邊委員
事務局	土岐創造都市推進局長、佐藤創造都市推進局参事、長井創造都市推進局参事、橋本経済産業部長、永正中央卸売市場長、高尾文化・観光・スポーツ部長、田辺立地・創業・イノベーション支援室長補佐、岡崎農林水産課長、三宅土地改良課長、池田地籍調査室長、塚原競輪場事業課主幹、米井施設整備室長、諏訪観光交流課長、里石観光交流課主幹兼都市交流室長、一原文化芸術振興課長、川畑文化財課長補佐、川西美術館美術課長補佐、佐野産業振興課長補佐、溝渕産業振興課長補佐、塩田産業振興課係長、松下産業振興課主事
傍聴者	0人 (定員 10人)
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

1 開会

2 議題(1) 第2次高松市創造都市推進ビジョン(案)について

(事務局から資料説明)

【会長】

それでは委員の皆さんから、御意見をいただきたいと思う。

【委員】

会長への質問になるが、この「第2次高松市創造都市推進ビジョン(案)」は、他市の計画やビジョンと比較してどう思われるか。

審議経過及び審議結果

【会長】

高松市は、創造都市推進局として創造都市を推進しているので、総合的な内容になっていると感じる。横浜市は、文化観光局内に創造都市推進課があるので、文化・観光に絞り込んだ形になっている。金沢市は、クラフト&フォークアート分野でのユネスコ創造都市なので、工芸が色濃く出ている特徴がある。全国にユネスコ創造都市は7つあるが、各都市はそれぞれの認定分野の色が強く出ている。このビジョンは総合的な内容だが、今後、ユネスコ加盟を目指すということなら、どこに重点を置いて展開するのが重要になる。

【委員】

他市と比べて見劣りはしないのか？

【会長】

それについては、実績の問題もあるだろう。取組がかなり進んでいるところは、内容も具体的になる。これから取り組むところは、抽象的な内容になる。それからいうと、このビジョンは、バランスよく出来ていると思われる。

【委員】

このビジョン（案）では、総合計画等との関連も書かれており、総合計画からの落とし込み方が大事になるのではないかと思う。その中で、MICE振興戦略にも触れられているが、現在の観光の形は、単位がどんどん小さくなり、グループや個人での観光が増えているように感じる。そういった方々へ、高松市の魅力をどう提供していくのがビジョン（案）の中で見えてこない。

【会長】

私はそうは感じていない。20ページをご覧いただきたいが、現ビジョンでは6つあったプロジェクトが、創造都市推進懇談会（U-40）での議論により、4つに絞り込まれている。これは前進又は進歩であると思う。MICE自体は広い意味の言葉であるが、この中でいうと「交流」に近い。図では「交流」が中の3つを包み込んでいるイメージになっているが、交流だけが目的でなく何をコアにした交流なのかを打ち出している。その意味では絞り込んだ意味が効いてくる。私としては、将来ユネスコ申請を目指す際に、申請するジャンルをこの図の中に入れる必要があるのではないかと、という懸念がある。申請過程の段階に応じて、修正ないし含みを持たせる形でもいいのではないかと。

私の方から質問したいが、香川大学に創造工学部が新設されるが、「創造都市論」のようなテーマが取り上げられるようなことはあるのか。

【委員】

創造工学部について話をさせていただくと、理念としては、芸術・アート・寛容性と工学の理性とを融合させた学部といわれている。その中で、造形・メディアデザインコースというものがあり、高松工芸高校の卒業生を県内で育成したいという思いで創設されている。その点で、香川県と大学の連携は耳にしているが、高松市と大学との連携が行われているのか、むしろ事務局にお聞きしたい。

【事務局】

局は異なるが、市民政策局では大学との連携事業が行われており、年に一回、市長と学長との意見交換を行う懇談会であったり、局長級職員と香川大学の各学部長との意見交換を行う連絡協議会の場を設けたりしている。創造工学部の設置について協議が行われたかどうか把握はしていない。

【委員】

おそらく創造工学部では、創造都市の理念について認知されていない可能性が高いと思われる。香川県では、昔から工芸の素養が培われており、創造都市の理念と十分にリンクできると思われる。

【会長】

先ほどの質問の背景として、創造都市を推進する上で、拠点施設が重要になるからである。金沢では、2004年秋に21世紀美術館が開館し、それ以前に市立大学として金沢美術工芸大学が設立されており、ドイツの近代デザインなどを学ぶことができる。デザイナーも多く輩出し、それにより、伝統工芸も現代化する流れが生まれる可能性もある。高松の盆栽もデザインとして見ることもできる。神戸市は、私立大学と連携している。拠点施設は創造都市の戦略として大事であり、ビジョン（案）の11ページにも記載されている

【委員】

ビジョン（案）はよく多岐にわたり、書きこまれていると思うが、どうも自分のものとしてピンとこない。私の周りでも、現ビジョンについて認知されていない。このビジョンというものは、関わっている人たちだけのものなのか、それとも広く市民に浸透してもらいたいものなのか。後者であったとして、これに関わることで自分たちの生活がどうなるのかが見えてこない。唯一、10ページのコラムを読むことで、こんなことが起こっているんだな、ということが分かる。より広く市民に知ってもらいたいのであれば、もっと分かりやすく物語的な文章のあるページを増やしてほしい。

【事務局】

事務局としても、10ページのコラムについては、もっとページ数を割きたいと考えている。現ビジョン策定時は、ホームページや広報紙により周知を実施したが不十分であったように思う。次期ビジョン策定時には、市政出前ふれあいトーク等にて説明させていただければと考えている。

【委員】

よく書けたビジョン（案）であると思うが、ここに記載のある事業について市はどれだけ把握しているのか、という違和感がある。各事業者からの情報収集や、各事業者への情報提供という情報伝達が、もうちょっとあってもいいのではないか。

【事務局】

私どもも反省すべき点は多く、市役所内部と外部の方との情報交換ができてい
るのか、という点が一つある。今後、次期ビジョンを進めていく上で、皆様方の
御意見をお聞きしたいと考えている。

【委員】

最近、フェイスブックの稼働が落ちているのでは？情報があまり入ってきてい
ない。

【事務局】

投稿数自体は増えている。去年にはなかった香南アグリーム等、農林水産に関
する投稿も掲載するなど、発信力自体は落ちていないと認識している。

【会長】

私もフェイスブックはしているが、フェイスブック側が情報の取捨選択をして
いると思われる。話は変わるが、現在、日本全国で2020東京オリンピック・
パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムが計画されているが、文化プロ
グラムについての全国的な情報のプラットフォームが立ち上がっている。そこで
は、行政や民間のイベントを自由に掲載でき、著作権をきちんとすると良いもの
が提供できる。創造都市推進局の取組が、市民に近いものになるとしたら、ホー
ムページやSNSにおいてどれだけ頻繁に魅力的な情報が動いているかが一つ鍵
となると思う。双方向の情報発信において、もう少し工夫が出来ればいい。U-
40の中で情報発信に得意な人がいれば、その人に任せてもいい。中の人たちだ
けでやらなくてもいいので、ネットワークを通じて能力のある人たちや意欲のあ
る人たちに働きかけることも一つ。

【委員】

高松市だけがやるのではなく市民も参画していくこと、さらにネット社会で一
番大事なことは、高松にいななくても高松を気にかけてくれる人がいること
だと思う。このサイトに来たら、創造都市のイメージがたくさん見ることができ
るようなポータルがあってもいい。

【委員】

この創造都市推進ビジョンというものが策定されて、その後のアクションプラ
ンはどういった流れになるのか。このビジョン（案）はよく出来ているが、具
体的に落とし込んで、市民や県外の方に発信していかないと絵に描いた餅になる。

【事務局】

アクションプランという意味だと、2ページに記載している各条例・計画が、
個々具体的なアクションプランという位置づけになる。今回、御審議いただい
ているものは、あくまでビジョンであり、創造都市を進めていく上での市としての
考え方を記載させていただいている。こういった考えのもとに各種事業に取り組
んでいる、ということを知っていただくということがこのビジョンの内容にな
る。その点では、現ビジョンの改訂後の周知方法については検討を重ねていき

たい。

【委員】

コラムなど、市民に分かりやすいという目線で、策定していただきたい。

【会長】

おそらく概要版のような、分かりやすい冊子を別に作るのではないだろうか。それに、男木島や仏生山のストーリーや、美術館の改修やミライエの開館など拠点施設が形成されたことなどを盛り込む。私の好みとしては、「第2次高松市創造都市推進ビジョン」とは別にサブタイトルを付け、市民に配布するときには逆にサブタイトルをメインにし、「第2次高松市創造都市推進ビジョン」をサブタイトルにする。それぐらいやってもいいと思う。行政計画と市民に伝えるときとで、伝え方を変えるぐらいがいい。

【委員】

2期目に入り芸術祭が開催されるなど、観光・芸術・伝統工芸などは見直されてきたと思うが、食については農業・林業・漁業のような芸術家が関係ないような分野でも、創造都市の観点を持って取り組むべきだと思う。

【会長】

おっしゃるとおりだと思う。ユネスコではガストロノミーという認定分野が「食文化」として知られているが、文化庁が改正した「文化芸術基本法」にある生活文化の振興の中に食文化を例示している。農業・林業・漁業など食文化という関連産業が広がっていき、テーマとして面白い広がり方を見せる。

【委員】

ユネスコの話で恐縮だが、個人的には「食文化」か「工芸」だと考えている。「食文化」で申請をしていくのなら、こういった要素が必要となってくるのか御教授願いたい。

【会長】

食はいくつかの方向から注目されている。一つは無形文化遺産での認定。フランスのサルコジ大統領時に「フランスの美食術」が認定を受け、その後、地中海沿岸諸国の「地中海食」が認定を受けた。そういった、地域性と歴史性がある料理法に光が当たった。日本も「和食」の認定に向け動き出したが、「和食」といっても懐石料理から精進料理まで様々ある中で、認定を受けたのが「おばんざい」だった。世界遺産もそうだが無形文化遺産の理念として、放っておくと消滅してしまうため、保護をして継承していくというものがある。認定後は大学等も増え人材育成に力を入れるようになっている。

ユネスコ創造都市でのガストロノミーは、範囲がもっと広い。新潟市は食糧生産の面では国内でも圧倒的だが、大切なのは個性的な料理法があり、それが地域の人々に支えられているということ。鶴岡はそういった意味では、かなり個性的である。

昨年は、スウェーデンのエステルスンドという食文化で認定を受けている都市

において、ユネスコ創造都市の総会が行われたが、その都市ではアーティザン・フードという職人的な料理法の数が多いことで認定に至った。

【委員】

香川県関係課と県内卸売市場とが連携した「香川県卸売青果ネットワーク」というものがあるが、そこでは今、野菜のブランド化を検討している。前回の会議にて、ユネスコ創造都市の説明が受けたが、「ガストロノミー」の分野において新しく整備される中央卸売市場が拠点として活用できるのではないかと考えている。伝統料理を受け継ぐだけでなく、21世紀の食事法を創造する場としても活用できる可能性があり、今ある現状をユネスコに申請するのではなく、今後、新しい食事法などが創造できる場を作り上げていくことを目的に掲げ、「ガストロノミー」で申請することも一つなのではないか。

また、ビジョン（案）について申し上げますと、一般市民の目線から見て、非常に分かりやすい言葉を使っているように感じた。行政が作るものの中では分かりやすく、民間の会社で言う「企業理念」を策定したという意味では、非常に分かりやすいものだと思う。

【委員】

中央卸売市場の再整備は、創造都市の話と関連していくことができるのか。

【事務局】

まず現状として、老朽化している施設を、学識経験者等からの御意見を踏まえて、建替える方向で進めている。場所の問題から青果棟については現地以外の場所へ建替えし、水産物棟は青果棟跡地に建替えを行う。青果棟の移転候補地を日本たばこ産業倉庫跡地である朝日町三丁目用地を選定し、所有権移転等の手続きについて、現在、日本たばこ産業と協議中である。また、都市計画区域内であることから、都市計画決定に向けた業務も進行中である。さらに埋立地なので、盛り土や液状化対策も検討している。目標年度については、青果棟は平成35年、水産物棟は39年をそれぞれ掲げており、現在のビジョン（案）の計画期間を超えたものにはなる。

【委員】

東京は築地市場が有名でツアーもあるように、外から来る宿泊客も、食に関心を持っている方が多い。外から来た人が、高松の食の独自性などを感じられる場所として、市場があればいいと思う。また、高松は全体の水準が高いが、それが逆に外から見たときに高松市の独自性が見づらくしているように感じる。宿泊客におすすめの場所を紹介する場合も島が多い。自転車の利用が多いことや、昼食はうどん屋の利用が多いといった、一つ一つある高松の独自性の点同士を結び、光景にすることで、市民や外の方々にも伝わりやすくなると思う。

【委員】

今日は食に関する話題が多いが、以前行われた「SETOUCHI SUMMER NIGHT FESTIVAL」でも、周りにブースが出ることで、大勢の来場が見込める。

今、一番関心があるのは、来年夏に屋島で開催される「日本パラ陸上競技選手

権大会」であり、その際にも食に関連するブースが出れば大いに盛り上がると思う。

【委員】

岡山中央卸売市場にふくふく通りという通りがあり、全国でも珍しく一般の方でも通うことができる。地域性というものを、食べて理解することができるということは非常に重要な要素であると思う。

【委員】

創造都市の担い手の話だが、金沢は経済同友会が主体となり、色々な会にも出席したりしている。商工会議所など民間団体との関わり方を考えてもらいたい。また、ビジョン（案）について、県庁東館等、県の建物が欠落しているのでぜひ記載していただきたい。さらに、表紙にシンボリックなものを記載したらどうか。イサム・ノグチ氏の「エナジー・ヴォイド」などを、財団に協力してもらってはどうか。そういった、創造都市・高松のブランドの作り方、象徴の作り方を検討してほしい

【会長】

様々な御意見をいただいたところで、議題（１）を終了したいと思う。それでは、議題（２）について事務局から報告があるようなのでお願いしたい

3 議題（２）その他

（事務局から報告）

【会長】

特に御意見がなければ、閉会とさせていただきます。

4 閉会

（事務局から、次回審議会予定等についての連絡事項を周知）